

Flair

Magazine of Teikyo
Alternative Life

[フレア]

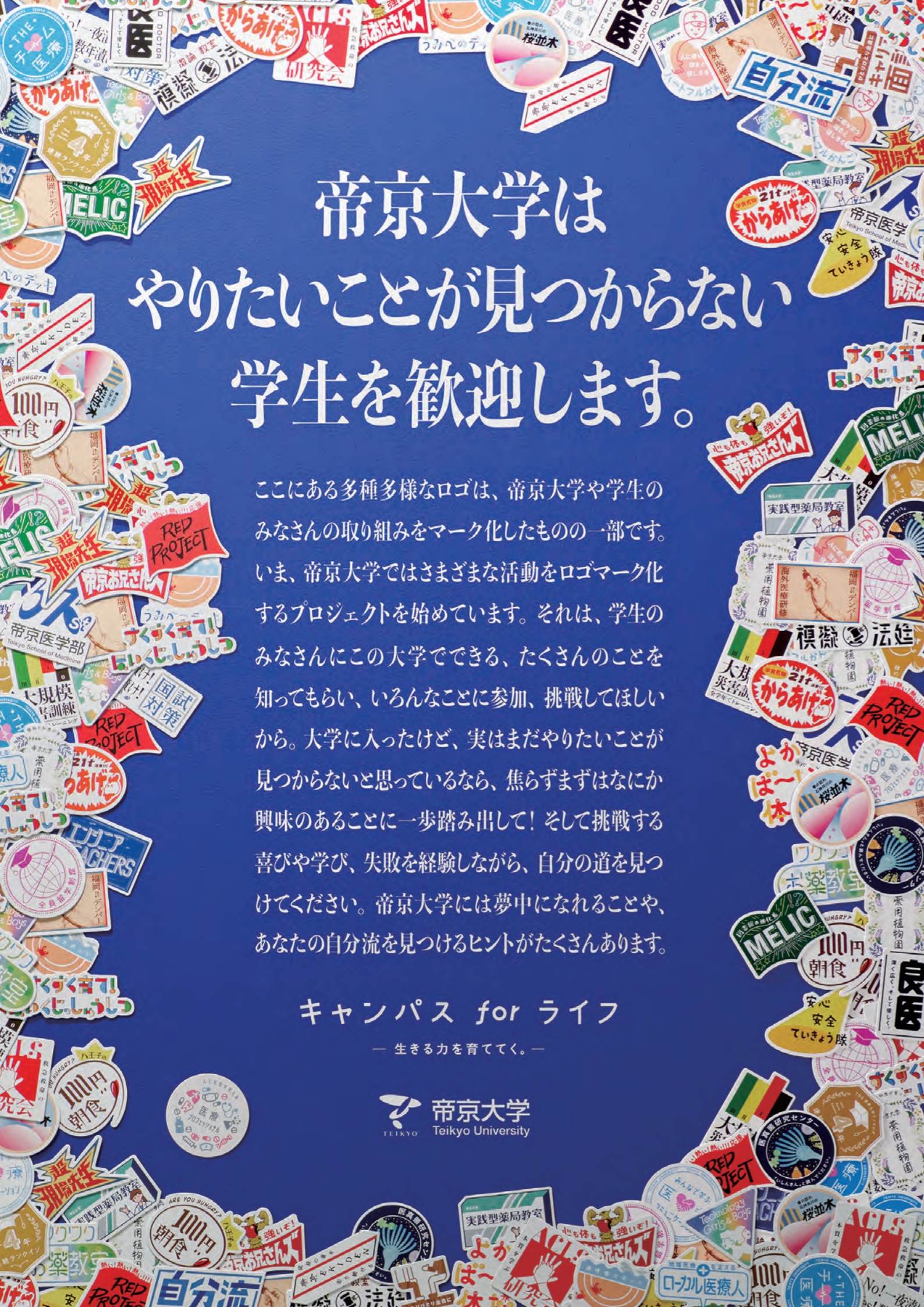


vol.125 JANUARY
2023 WINTER

TAKE FREE

ものづくりの夏 2022。

人力飛行機で空を飛ばうとしたり、
自慢の車で競い合った、あの夏を振り返る。



帝京大学は やりたいことが見つからない 学生を歓迎します。

ここにある多種多様なロゴは、帝京大学や学生のみなさんの取り組みをマーク化したものの一部です。いま、帝京大学ではさまざまな活動をロゴマーク化するプロジェクトを始めています。それは、学生のみなさんにこの大学でできる、たくさんを知ってもらい、いろんなことに参加、挑戦してほしいから。大学に入ったけど、実はまだやりたいことが見つからないと思っているなら、焦らずまずはなにか興味のあることに一歩踏み出して！そして挑戦する喜びや学び、失敗を経験しながら、自分の道を見つけてください。帝京大学には夢中になれることや、あなたの自分流を見つけるヒントがたくさんあります。

キャンパス for ライフ
— 生きる力を育ててく。 —



Cover Story No.15
Yamane Fujimoto
—
photo: Kenji Nakata
styling: Miyu Yasumi
hair&make: Ayako Higashikawa
text: Naomi Haga

変身裏話。



文学部史学科 3年
東野高等学校(埼玉県)出身

藤本山音さん

今回変身したのは

史学科に進学したきっかけは？
小学生のころに遊んだゲームをきっかけに歴史に興味を持ち始めました。特に戦国時代が好きで、休日はお城めぐりをしたり、歴史的建造物を見に行ったりしています。現在は山本英貴准教授のゼミに所属しており、江戸時代の書物について研究しています。

昨年の夏休みの思い出は？
インターシップへの参加や、キャンパスライフフューチャー(帝京大学の魅力を高校生や学内外にPRする学生スタッフ)としてオープンキャンパスの準備などで慌ただしくしていました。友人と山梨へグランピングに行ったこともよい思い出です。

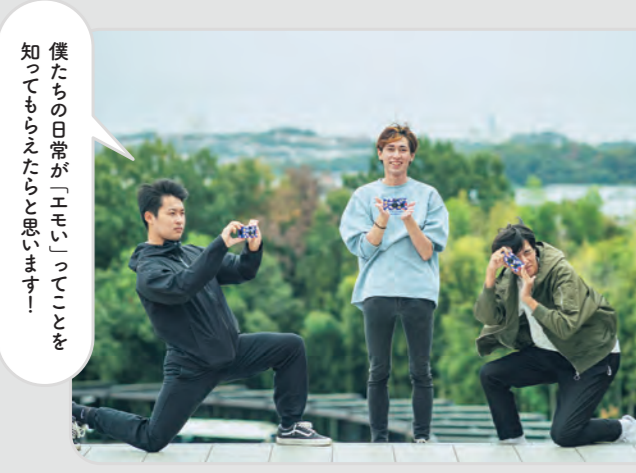
「ものづくり」をすることは？
写真を撮ることが好きです。父がカメラマンで、小さいころから写真の知識をいろいろと教えてくれました。2年前、コロナ禍をきっかけに何か新しいことを始めようと思い、自分でカメラを購入しました。いまでは旅行に行くときは必ずカメラを持って出かけるようになり、景色や友人の姿を撮影しています。



今回の表紙撮影場所
Arc studio
(アークスタジオ)

目黒区の住宅街にあるハウスタジオ。日本の女性建築家のバイオニア・林雅子氏が設計した、和と洋がミックスされたモダンな軒家。2階は趣のある和の空間で、障子を開けると、四季折々の表情が楽しめる緑豊かな庭が広がっている。

参加の意気込みは？



僕たちの日常が「写ルン」ってことを知ってもらえたらと思います！



3年間通っているのに知らないことを、この機会に探してみたいと思います。



普段も使う「写ルンです」で、今回は友だちをたくさん撮りたいです。



写ルンです、キャンパスライフを撮影しよう。



キャンパスライフの素敵な瞬間を、学生自身に写真におさめてもらう試みが、八王子キャンパスにて行われました。



八王子キャンパスのソラティオスクエア1Fのエントランスホールにてカメラ配布が行われた。

フを見つめ直してもらおうことも目的に含んでいる。
2022年10月5日、6日の2日間で行われたカメラ配布の会場では、興味津々な学生たちの姿が見受けられた。「最初はちょっと恥ずかしいなと思って配布場所の前をスルーしてしまったのですが、コロナ禍で日常生活に制限がかかるなか、講義を受けて課題を提出して帰るばかりになっていたキャンパスライフだったので、これをきっかけに何か思い出づくりができるかなと思って戻ってきました」と語ってくれた学生もいた。
カメラは同月中に回収され、今後は学生の撮影した写真の一部が帝京大学の広告に活用される可能性もあるという。素敵な写真が活用される日を楽しみにしておこう。

あなたが「素敵！」と思った瞬間こそ、大学のイトコロ。
インスタントカメラ「写ルンです」で、学生たち自身にキャンパスライフのワンシーンを撮影してもらおう「私たちのキャンパスライフを撮影しよう。」という企画が、八王子キャンパスにて行われた。
本企画は、学生が生きる力を育むために帝京大学が取り組んでいるさまざまな魅力を「見える化」しながら、キャンパスライフを通じてやりたいことを見つけようという「キャンパス for ライフ」生きる力を育ててく。「というプロジェクトの地続きにあるもの。本企画によって学生の視点で日々のキャンパスライ

企画に参加してくれる学生を公募した際の学内掲示ポスター。ポスターを見てカメラをゲットしてきた学生も多数。

参加してみて、どうだった？

Q&A Q1. なぜ西武ライオンズのインターンシップに参加しましたか？
Q2. インターンシップでどんな体験ができましたか？
Q3. どんなことを学び、得られたと思いますか？



PBL(課題解決)型コース

久松 大騎さん 文学部史学科 3年
山村学園高等学校(埼玉県)出身

石坂 真柚さん 帝京大学短期大学
現代ビジネス学科 1年
昭和第一学園高等学校(東京都)出身

古谷 拓夢さん 文学部社会学科 3年
立花学園高等学校(神奈川県)出身

A1. 「高校時代からライオンズファン。愛着のある企業でインターンシップを経験したかったからです」(久松)、「ベルーナドーム観戦で見た広告がきっかけで、帝京大学への進学を決めたんです。私のためにあるようなプログラムだと感じて応募しました」(石坂)

A2. 「大学生世代における野球の関心度の調査、子連れファミリー向けの施策、インニング間を盛り上げるイベント企画についてそれぞれ調査し、発表しました」(古谷)、「さまざまな意見をまとめて結論に導くのが大変でしたが勉強になりました」(石坂)

A3. 「考えた企画を論評してもらう機会はインターンシップならではの。自分の案を高評価いただけたことがうれしかったです」(久松)、「大人数の前で発表するのは初めてでした。意見をもらうことで考えも深まり、自分の糧になりました」(古谷)



PBL(課題解決)型コース

荒井 陽翔さん 経済学部経営学科 3年
紅葉川高等学校(東京都)出身

渋谷 雅希さん 経済学部観光経営学科 3年
座間総合高等学校(神奈川県)出身

川崎 幸大さん 文学部史学科 3年
安田学園高等学校(東京都)出身

A1. 「スポーツ経営コースに在籍しており、スポーツに関わる仕事に興味があったからです」(荒井)、「ライオンズファンかつ、大学では観光経営学科で学んでいます。イベント運営の裏側を知って、集客のための施策を考えてみたいと思いました」(渋谷)

A2. 「大学生が友人を誘って行きたくなるイベントの立案、ファーム興行の集客のための施策、球場アルバイトの応募を増やす施策という課題について調査し、プレゼンしました」(渋谷)、「提案内容を考えて10分にまとめる難しさを実感しました」(川崎)



A3. 「これまで大人数の前で発表する機会がなかったので、社会で働くイメージが湧きました。スポーツ関係の仕事に就きたいのでいい経験になりました」(川崎)、「普段は観客側なので、運営には多くの人が関わっていることを実感しました」(荒井)



就業体験型コース

河村 優輝さん 経済学部経済学科 1年
大成高等学校(東京都)出身

上中 朱音さん 教育学部初等教育学科 2年
相模原高等学校(神奈川県)出身

儘田 健太さん 経済学部経営学科 1年
川口高等学校(埼玉県)出身

A1. 「野球の魅力伝える仕事に興味があり、野球振興の取り組みを学ぶためです」(河村)、「教員をめざすなかで、さまざまな職業を体験して視野を広げたいと思いました」(上中)、「野球人口を増やすために球団職員になることが夢からです」(儘田)



A2. 「法人への営業に同行し、多くの人に野球が支えられていることを実感。部署によって仕事に対する視点が違うことも勉強になりました」(河村)、「来場者を増やすためのイベントの企画を考える座学もあり、考え方の幅が広がりました」(儘田)

A3. 「いろいろな人と話すことで考えが深まり、価値観が広がりました。人との関わりが大事と感じました」(上中)、「実際に現場で働いてみると、講義で学んだことは異なり思い通りにならないことも。多様な視点や考え方が必要だと経験できました」(河村)

西武ライオンズ インターンシップが実施されました。

施設命名権スポンサー契約を締結し、関係の深い帝京大学と西武ライオンズ。社会の発展に貢献できる人材育成のためインターンシップを実施し、9名の学生が参加しました。

野 球を通して子どもたちへの教育活動を広げたいという西武ライオンズの理念に賛同し、施設命名権スポンサー契約を結んでいる帝京大学。さまざまな連携を行うなか、学生が地域振興や地域活性化を学ぶための取り組みとして、2022年夏に「西武ライオンズインターンシップ」が実施された。9名の学生が2コースに分かれて参加。「就業体験型コース」では営業同行や試合運営など球団運営に関わる業務を体験。「PBL(課題解決)型コース」では、観客を増やすための施策など球団が抱える課題を調査し、プレゼンテーションを行った。社会での実務経験を通して新しい視点や知識を得て、今後のキャリアを考える機会となったようだ。



インターンシップでお世話になった西武ライオンズ社員の方々とともに記念撮影。



ベルーナドームエリアの隣には、「帝京」の名を掲げた「テイキョウキッズフィールド」という屋外こども広場が広がっている。



Virtual Exchange Program (VEP)

日米の医療における違いを学ぶ



VRゴーグルの中ではこんな映像が見えています!

福岡からアメリカへ
VRで異文化交流



東 冴惟子さん
福岡医療技術学部 看護学科 2年

米国の医療の専門家からVRを用いて講義を受けるなど普段とは違う体験にわくわくと話す東さん。日米合同のプレゼンテーションでは「米国の学生とペアになって、オンラインで話し合いながら準備を進めるのですが、「当たり前」が違うからそれに気を使いながら交流するのは、まさに異文化交流。国内にいながら異文化理解ができました」と振り返った。

英語漬けの4日間は
自分に自信をくれた

神山 詠里さん
医療技術学部 臨床検査学科 3年

佐藤 舞雪さん
医療技術学部 臨床検査学科 3年

篠田 菜摘さん
医療技術学部 臨床検査学科 3年

日常生活で英語を使う機会がほとんどなく、行く前は英語力に不安があったと話す3人。「行ってみたら意外とどうにかなりました。講義で使う専門用語は共通だったので、話の内容は英語でも理解できました。一歩踏み出してみることで自信ができました。マヒドン大学の学生はハングリー精神旺盛でびっくり。英語もペラペラで、自分が日頃受け身であったことを思い知らされました」。



英語の本場で楽しく自分のスキルを鍛える

イギリス・ダラム留学

タイ・マヒドン大学との学生交流



海外の楽しさと現地で学ぶ重要性を実感

所属するゼミの教員からも
変わった、と驚かれました



田村 銀士朗さん
医療技術学部 スポーツ医療学科
健康スポーツコース 3年

ダラム大学の学生をはじめ、語学学校で出会った同い年くらいの学生が「大人」で刺激を受けたと話す田村さん。「振る舞いが落ち着いて、自分に責任をもっていると感じました。半年間、彼らと過ごすうちに、以前は思ったことが口からすぐ出てしまっていたけれど、物事を一歩引いて冷静に考えてから話すようになりました」と自身の成長を実感している。

帝京グローバル宣言。 PHASE 3

国内・海外

どこにいたって グローバル!

長く途絶えていた海外との交流が再開。
コロナ禍でさまざまな交流方法が生まれ、
いまやオンラインと対面のハイブリッドの時代。
国内と国外でどんな交流ができるか見てみよう。

国際的な環境を最大限に生かしてチャレンジ!
コロナ禍によって海外との渡航が制限され、中止を余儀なくされていた留学や海外研修が、各国の入国規制緩和により本格的に再開した。帝京大学でも海外との交流が再開し、板橋キャンパス医療技術学部臨床検査学科では、本学と国際交流協定を締結しているタイ・マヒドン大学へ学生が訪問した。また、イギリス・ダラムキャンパスでも学生の受け入れが3年ぶりに再開するなど、コロナ禍以前の活気を取り戻しつつある。しかしながら、ロシアによるウクライナ侵略や不安など、いまだ不安の残る世界情勢。気軽にふらっと海外へ行くにはもう少し時間がかかりそう。それでも本学には、学

内でも国際的な活動ができる環境もある。例えば、八王子キャンパスにある「OUCHI COMMONS」では海外留学生と日本人学生の学内異文化交流の場として「日本語ラウンジ」や「English Café」などのイベントがある。福岡キャンパスではオンライン海外研修プログラム「Virtual Exchange Program」を実施。日米の医療制度の違いについての講義や「Virtual Reality (VR)」を使用した体験型レクチャーを受け、米国の学生とリアルタイムで協働して価値観の違いや異文化への理解を深めている。このように国内外でも国内でも、帝京大学では国際的な活動ができる。実際に参加している学生の声を聴いてイメージを膨らませ、チャレンジしてみよう!

留学生受け入れ再開で活性化される交流の場



OUCHI COMMONS

友だちと学びながら遊べる場所です!



奥野 加奈さん
経済学部
国際経済学科 3年

国際交流アシスタントとしてさまざまな交流イベントの企画・運営に携わる奥野さん。「コロナ禍で海外に行きたくても行けない状況の中、OUCHI COMMONSとの出会いによって、国際交流に対する考え方や価値観が180度変わりました。ここに来れば、国内にいても気軽に国際交流ができるし、語学の勉強だって楽しくできる!いまは日本人の友だちよりも留学生の友だちの方が多いです」と話した。

大学生生活をより楽しくする出会いの場所



ヌルシャヒラ
ビンティムハマド
アスリさん
経済学部
経済学科 3年

「とにかく楽しい場所です。講義では日本人・留学生問わず気軽に話せる機会が少ないですが、ここに来れば誰かが必ずそこにいるので困ったことも相談できます。交流イベントもたくさんあるからすぐに友だちができます。友だちが欲しい人はぜひ来てほしいです」と話すマレーシア出身のヌルシャヒラさん。OUCHI COMMONSは、日本人の友だちも留学生の友だちもできる出会いの場所!



ぼくらの
クラブ活動。
photo: Kenji Nakata text: Satoko Kanai
file:
10

club	Beans 帝京大学ボランティアサークルBeans
place	八王子キャンパス
data	50名程度で活動中。活動日時は火曜18時30分から19時30分。 学内清掃を中心に環境美化活動に取り組む。地域のイベントなどさまざまなボランティア活動にも参加している。

学年の垣根を越えて
ボランティア活動に取り組む。

学内清掃を中心とした環境美化活動や視覚障がいのある学生へのヘルプボランティアなど、さまざまなボランティア活動に取り組む「Beans(ビーンズ)」。週一回の放課後の活動では、学内清掃と併せてレクリエーションを行い、メンバー同士の交流を深めている。活動時間を終えても会話が盛り上がり、ついつい長居してしまうのだとか。

「レクリエーションでは学年の違う人同士をペアにするなど、いろいろな人と交流できるように配慮しています。先輩からも「学年の壁がなくて居心地がいい!」と言ってもらえま

すね」と話すのは、会長を務める細井恵悟さん。和気あいあいとした雰囲気でも参加しやすいのが「Beans」の魅力なのだという。日々のボランティア活動のなかで新たな発見も多いのだとか。「以前から、ボランティアを『する側』、『される側』という表現に違和感がありました。視覚障がいのある学生のヘルプボランティアをやっていたときに、友だちのような感覚で接するように心がけていたのですが、あるとき実は自分も助けられていることに気がついたんです。お互い様、なんだなと思うようになってからは、ボランティア活動に対してよりやりがいを感じられるようになりました。」

「Beans」は大学と連携しながら地域のイベントなどのサポートにも精力的に取り組んでいる。八王子市の南大沢警察署生活安全課防犯係が主導する南大沢大学連合地域安全ボランティアにも毎年参加している。その中で、駅前での高齢者への特殊詐欺防止の啓蒙活動をはじめとする地域防犯に尽力したことが評価され、2022年7月には南大沢警察署から南大沢警察署長・南大沢防犯協会会長連盟賞(地域安全運動功労)を受賞した。「自分自身は多摩地区になじみがありませんでしたが、「Beans」の活動で地域の方々と交流していくにつれて、この地域にもっと貢献していきたいという気持ち芽生えました。今後も、新しいことにもいろいろチャレンジしながら、学外の活動で地域に貢献していきたいですね。」

迷ったらコレを食べなさい!

アスリートの栄養サポートを行っている管理栄養士が、料理が苦手な人でも簡単にできる栄養バランス◎のレシピを紹介。おいしく健康なカラダづくりをしましょう!

Recipe #05

炊き込み ビビンバ

調理時間:約15分

※炊飯時間をのぞく



材料(2~3人分)

- 牛肉…200g
- ★焼肉のタレ…大さじ2杯
- ★ごま油…大さじ1杯
- にら…1/2束 もやし…1/2袋
- キムチ…100g 米…2合
- 水…350ml 塩…少々
- 焼肉のタレ…大さじ3杯
- 卵…1食につき1個
- 白ごま、のり…適量

作り方

- 牛肉は食べやすい大きさにカットし、★といっしょに袋に入れてもみ込み10分おく
- といだ米を炊飯器に入れ、水・塩を加えて軽く混ぜたあと、焼肉のタレを回し入れる
- ②の上に、にら・もやし・キムチ・牛肉の順に広げてのせ、炊飯器のスイッチをON
- 炊き上がったら全体を混ぜ合わせ、卵のせ、白ごま、のりをトッピングする



ポイント
炊きあがりのむらを防ぐため、焼肉のタレを入れた後は混ぜずにそのまま!

Teacher

堀内麻央 助手



八王子キャンパスラグビー部の栄養サポートと、学内の強化部選手が使用するアスリート専用食堂の運営業務を行う。

スポーツ医科学センターって?

2011年にスポーツ医科学に関する研究の推進とアスリートのサポート体制強化のために設置。各専門分野のスタッフが連携しながらアスリートのサポートを行う。

実食!

実際につくって食べてみた!



材料を入れて炊くだけというシンプルな工程で、美味しいビビンバをつくることができました! 洗いが少なく済むのもうれしいポイントです。調味料などをプラスして好みの味付けにしたり、レシピのアレンジにも挑戦したいと思いました。

アレンジも楽しめそう!



つくってくれた人
八王子キャンパス
ラグビー部 食事係長
菅原海人さん(4年)

ココがスゴイ!

冬こそ発酵食品で 免疫力アップ!

発酵食品であるキムチは腸内環境を整えながら、免疫細胞を活性化させてウイルスの侵入防止にも役立ちます。継続的に食べることで免疫力を上げていきましょう。

「健康・美容・貧血 予防」には鉄分を!

貧血予防に加え、美容の味方であるコラーゲンの合成にも欠かせない鉄分。牛肉は鉄分が多く、なかでも赤身肉にはより豊富な鉄分が含まれるとされています。

vol.10 にしむこみかこ 西向堅香子ゼミ

外国語学部 外国語学科 英語コース

ぼくらの ゼミ活動。

持続可能な社会を
創造するための
多様なアプローチを学ぶ
西向堅香子ゼミをたずねました。



よりよい
社会づくりのために
それぞれができることを
導いてもらえたら。

ゼミ活動を通して、
相手の立場を考えて
言葉や行動に
気をつけるように
なりました。

SDGsをテーマに「全体性」と「共感力」を育む

身近にある社会問題に対して自分たちができることを導く。

西向 貧困や環境、人権問題という地球規模の課題は、もはや他人事ではありません。私たちにも身近な問題だからこそ、学生のみならずに地球市民としてのあり方を考えてもらいたいという想いから、「SDGs」をテーマにしたゼミにしています。文献調査やフィールドワークを通して、持続可能な社会、よりよい社会づくりのために何ができるのかを導いてもらえたらと思っています。

日置 自然や人権問題など幅広く興味を持っていてるので、SDGsというテーマはびびったり。テーマは自由に決められるので、3年生のころは谷村さんたちと一緒にLGBTQの研究をしていましたが、いまは川の環境問題について研究しています。

谷村 私はフィリピンで生まれ育ち、幼いころから日本とフィリピンを行き来しているなかで貧困など社会問題に関心を持つように。もともと社会問題に対して自分が貢献できるような人間になるために、国際協力における社会問題について学んでいます。例えば、途上国の支援として古着などの物資を送るというケースがありますが、実は現地の産業発展を妨げていることも。善意でやっていることが根本的な支援になっていないこともあると知りました。

外国語学部 外国語学科
西向 堅香子 准教授
2016年に入職。専門分野はシエラレオネとガーナの教育開発。アフリカの社会に深い関心を持ち、マスク(仮面)のコレクションもある。

谷村仁香さん/外国語学部 外国語学科4年。
フィリピン人の母を持ち、アメリカへの留学経験などから国際協力に興味を持つように。

日置亜美さん/外国語学部 外国語学科4年。
自然と触れ合う一人旅が趣味。ゼミではLGBTQと河川環境の保全について研究。

しまくと環境負荷がかかるという話を聞いてから、庭に捨てるようになったりと、ゼミ生から学ぶことも非常に多いです。

日置 LGBTQの研究のときにアンケートを取った際、意外と身近にしていることがわかって。それから「女の子だから」と言わないようになりました。いろんな人がいる前提で発信をするよう心がけています。

谷村 ゼミで活動をしていくなかで外国人がもっと働きたい社会にするために貢献していきたいという思いが強くなりました。外国人労働者はビザ取得などさまざまな問題があるので、何か手助けができれば。

西向 こうした「想像力」や「共感力」というのは、国際協力において非常に大事なことです。ただ情で動くのではなく、エビデンスをしっかりとらえ、自分で自分たちの行動につなげたり、よりよい社会づくりのための価値観やアイデアを導いたり、頼もしく成長してくれていると感じています。社会や文化的背景や相手の立場や気持ちに寄り添い、さまざまな人の立場から多様な見方ができるようになってくれるとうれしいですね。

寒い季節に振り返る夏の思い出ほど、キラキラ輝くものはないように思います。今回の特集では「Sky Project」と「帝京フォーミュラプロジェクト」という宇都宮キャンパスの2つのクラブが、それぞれ大きな大会に参加する様子をお届けしました。取材中、学生たちの姿は本当に輝いて見えました。何かに熱中できることはこんなに素晴らしいことなんだとあらためて感じ、「どうにか誌面にこの輝きと熱意が残りますように!」と思いながら、いつもより写真を多用したり、少しマニアックな用語をそのまま残したり、工夫しながら制作しました。少しでもみなさまに伝わっていたらうれしいです。

八王子キャンパスでは「私たちのキャンパスライフを撮影しよう。」という試みがありましたが、自分のやりたいことが実は日々の中に潜んでいることもあります。カメラを通してなど、新鮮な目で見つめると何か見つけるかもしれませんよ。

Official Instagram

帝京大学の公式Instagramでは、本学からのお知らせやお役立ち情報をはじめ、多岐にわたって活躍する在学生たちの姿をお届けしています。



@teikyo_university



制作 Mo-Green
発行 TEIKYO UNIVERSITY
cover photo: Kenji Nakata

News

第5回帝京大学研究交流シンポジウムを開催しました。

2022年8月29日、帝京大学板橋キャンパスにて、第5回帝京大学研究交流シンポジウムを開催した。オンデマンドでのパネルディスカッション、オンサイトでのポスターセッションなどハイブリッド形式にて全キャンパス合同の研究交流が行われた。

開会の挨拶で沖永佳史学長・先端総合研究機構長は、研究交流シンポジウムを通し参加者が刺激しあい、より多くの共同研究が生み出すこと、さらに新たな研究の取り組みを促進し社会に還元できる可能性を持った大学の智をより多く蓄積することへの重要性について述べた。

パネルディスカッションでは「先端総研の活動の

意義を改める—コロナ禍による環境変化」についてあらゆる分野の視点で興味深い議論が展開され、ポスターセッションでは全236件の演題をもとに約430人の参加者による活発な意見交換が行われた。

今後も本学では、分野横断的・学際的な研究・教育を行うとともに、その知を社会に還元する取り組みを推し進めていく。



News

帝京大学へのご支援をお考えの皆さまへ

本学では、教育理念である“自分流”を活かして社会に貢献するために「教育」「研究」「医療」など、さまざまな取り組みを行っております。つきましては、皆さまのご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。



帝京大学みらい創造募金
「学生支援」「キャンパス環境整備」「研究支援」などの目的別にご支援いただけます。



帝京大学リサイクル募金
読み終えた本・DVDなどをご支援いただけます。

News

「テフロン™のケミカルリサイクル」に成功。

帝京大学理工学部バイオサイエンス学科の柳原尚久教授が「テフロン™を効率良く鉱物化すること」に成功した。

本研究成果により、フッ素系ポリマーから蛍石の主成分であるCaF₂を回収することが可能となり、ケミカルリサイクルとして循環型社会の構築に向けた技術利用が期待される。



Backnumber



Flair120 みんなの好きなモノ。



Flair121 帝京ブランド。



Flair122 時代を創る研究力。



Flair123 未来のためのエンカルトごはん



Flair124 あの人が頑張れるヒミツ。

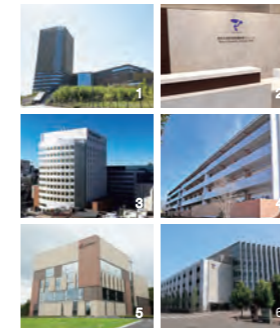


バックナンバーは大学HPよりご覧いただけます。

Accounting Report

1. 充実した教育・研究環境のための設備投資

帝京大学は、教育・研究環境を高品質に維持・向上させるために、事業計画に基づいて各キャンパスの教育研究設備投資を積極的に行っています。



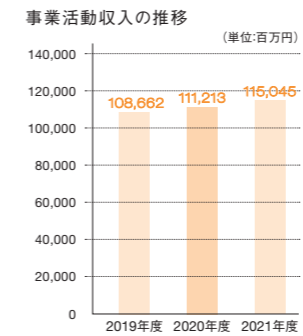
《最近の主な設備投資事業》1.八王子キャンパス新校舎(2015年度高層棟竣工、2017年度低層棟竣工) 2.医学部附属新宿クリニック(2015年度竣工) 3.医学部附属溝口病院新棟(2016年度竣工) 4.宇都宮キャンパス国際学生寮(2017年度竣工) 5.八王子キャンパススポーツ医学センター棟(2017年度竣工) 6.先端総合研究機構棟(2020年度竣工)

2. 2021年度の財務情報

帝京大学は、強固な財務基盤を背景として、積極的な設備投資と安定的な学校運営を両立させています。*学校法人帝京大学の財務データより

[事業活動収入]

事業活動収入は、一般事業法人の売上高に近いものです。下のグラフのとおり、本学の事業活動収入は毎年安定的に推移しています。なお、事業活動収入の80%が学生生徒等納付金と付随事業収入(医療収入等)です。



[基本金組入前当年度収支差額]
一般事業法人の税引前当期純利益に近いものです。教育研究設備投資に資金を回すためには、この収支差額が安定的に推移することが必要です。

年度	収支差額
2019年度	(+)6,517
2020年度	(+)11,417
2021年度	(+)13,178

[基本金組入額]

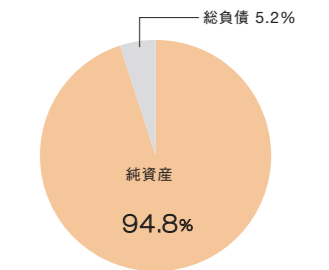
教育研究活動に必要な資産を保持していくために、事業活動収入を財源として基本金を継続的に組み入れています。

年度	組入額
2019年度	5,584
2020年度	2,153
2021年度	24,042

[総資産額]
積極的な設備投資等により、本学の資産規模は毎年増加しています。

年度	総資産額
2019年度	592,681
2020年度	606,819
2021年度	622,412

[純資産構成比率(2021年度)]
下のグラフのとおり、本学の資産の大半は純資産(基本金+繰越収支差額)で支えられています。



News

帝京スポーツサポーターの会 第1回定期総会を実施しました。

2022年9月28日、帝京大学八王子キャンパス小ホールにて、帝京スポーツサポーターの会第1回定期総会を実施した。

帝京スポーツサポーターの会は、スポーツ局と連携し本学のスポーツに係る諸活動を支援しスポーツ振興を図ることを目的に今年度より発足した。本学でスポーツを「する」学生だけではなく、本学のスポーツを「観る」「支える」ことに関心を有し趣旨に賛同する本学の教職員や学生、卒業生等が会員となり、活動内容に応じた4つのチーム(①パブリシティチーム ②イベントチーム ③メディカル・ハイパフォーマンスチーム ④マーケティングチーム)が設置されている。

同会の実質的なキックオフとなる第1回定期総会においては、役員を選任をはじめ、今年度の事業計画や予算等が提案され、いずれも原案どおりに議決された。4つのチームではそれぞれ①募

集活動や情報発信 ②子ども向けスポーツ教室の実施や強化運動部のファン感謝イベント③運動部活動の悩みアンケートや食事調査 ④チームオーダー受注ウェアの作成やスポンサー獲得等の事業を計画している。

また、本学の教員からなるアドバイザーグループを設置する会則改正も承認され、総会後の役員会において10人のアドバイザーが選出された。会長に就任した共通教育センターの森吉弘准教授は「学生が主体となり積極的に意見や質問を行い帝京大学のスポーツを盛り上げていきましょう」と話した。

同会の発足により、本学のスポーツは「する」学生だけではなく、「観る」「支える」学生によっても盛り上げられ、「スポーツサポーターの会」は学生自身の成長を促す場にもなるだろう。



